

たっちだより 第9号

真夏の訪問日記

ある日の訪問で、車椅子に乗っているご主人の傍らで奥様が遠い昔の話を始められました。結婚前、母親から「夫となる人を怒らせてはいけない」と言われ嫁いだ。しかし、結婚後ご主人に相談せずに反物を買って「俺はそんな物嫌いだ」と言われ困った事があったと懐かしそうに涙まじりに語られました。そして、それを聞いていたご主人の目にも涙がありました。二人がこれまで歩いて来られた道程と二人の絆を見せていただいたようでした。

80歳を超えた今も夫婦として寄り添っている事は素晴らしいと思います。「年を取るってわけのない事ですね」とおっしゃった奥様の言葉に、一步一步前へ進むよう日々努力していくことの大切さを教えていただいた訪問でした。



往診スタッフ紹介



荒井先生(泌尿器科)



関先生(整形外科)



榎先生(内科・循環器科)



相談員 樋口



医事課 事務員 松澤



事務員 須藤



さあ皆さんクイズです！ 脳も鍛えましょう！！

① ムシが近づいても一度目は無反応だった馬！
では、馬にまたムシが近づくと馬はどうなる？

②明日、ピザを3枚予約していた奥様が、今日中に届けるよう注文を変更！

すぐに3枚届けたら奥様は激怒！ さて、その訳は？



正解した方の脳はまだまだ柔らかい！！ 正解は？スタッフに聞いてね♥



～ 在宅で看取りをされたMさんご家族 ～

本人の意思を第一に考え、在宅で兄の癌と闘う覚悟はしたものの、初めての事で壁にぶち当たることばかりでした。足が不自由な母と、普段仕事で日中家にいない私との二人家族で、癌、しかも末期でいつどうなるか先の見えない病状の看護が果たして出来るのか、不安な要素が有り過ぎる位でしたが、そんな気持ちを遥かに上回る程、兄の最後になるかも知れない、希望を叶えてあげたいと言う一心でした。癌と診断されても、足が動かなくなってもいつも平常心で、我がままひとつ言わず痛みにもじっと耐えている兄を私達家族はそばでいつも見ていましたから。

毎日の仕事、兄の看護、家事、連絡ノートに目を通し書き込む・・・体は結構疲れていましたが、兄が目の届く所に居て病院で一人耐えている事を思えば精神的には楽でした。主治医の先生やタッチの皆様、他にも大勢の方のお力を借りながら手探りの毎日でした。

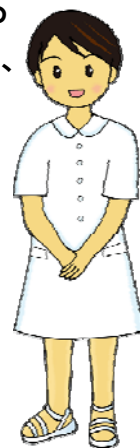
看護・介護は献身的にお世話を下さる方ばかりで、信頼も厚く安心してお願い出来、本当に助けて頂きました。皆さんが来ると家の中が明るくなり、私達家族にまでも元気を頂きました。本人の病状は日々違い朝起きて見るまでは毎日緊張でした。

心配事や分からない事は連絡ノートに記入しました。全てに回答・対処を頂き、不安な気持ちも全部聞いて頂きました。先生、看護師さん、ヘルパーさん、訪問入浴の方々が良く見て下さっているのが分かりました。兄の看病と一緒に一喜一憂し、他人様とこのような気持ちを共有できるとは、思いもしませんでした。

家に帰りたと言う故人の最後の希望が叶えられ、それがせめてもの慰めになっております。後になって思うと本当に十分な事が出来たのだろうか、まだまだ出来たのではないかと言う思いは拭えませんが、そのような感情は残るものだと看護師さんに聞かされこれで良かったのだと思うようにしています。

色々行き届かない事もあったかと思いますが、最後まで我がまま一つ言わず本人も協力してくれ穏やかに息を引き取りました。自分の家族ながら、本当に凄い人だったと思っています。

四十三歳と言う年でこの世を去ってしまい、まだまだやりたい事もあったらと思うのですが、今は苦しみも無い世界でゆっくり過ごしている事と信じています。



平成二十年八月

タッチスタツフ紹介



神田



菊地



川井



村石



山田



澤中

